

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成23年11月〇日
- 2 学年・組 第4学年〇組
- 3 指導事項 (1) 「書くこと カ」  
・書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。  
(2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 (ウ)  
・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。
- 4 単元名 「連詩にちょうせんしよう」
- 5 言語活動 ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩を創作したり、物語を書いたりすること。

## 6 単元の評価規準と目指す児童の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 連詩のおもしろさに気づき、進んで詩を創作したり読んだり聞いたりしようとしている。	○ 題から連想して創作したものを交換し合い、書き手の考えを受けて自分の思いをつなげ、連詩を創作している。	○ 題にそった内容になるように言葉を探したり、詩を創作するときに選んだりしている。
○ 連詩のおもしろさに気づき、友だちの創作した詩や、他の連詩を進んで読んだり聞いたりしようとしている。	○ 友だちの創作した連を受けて、自分の思いをつなげたり、イメージマップから題に合うように言葉を選んだりして、連詩を創作している。	○ 想像を膨らませて、イメージマップに言葉を書き溜め、その中から言葉を選んだり、言葉を比べて当てはめたりして、連詩を創作している。

## 7 単元について

### ○ 児童の状況について

#### 交流について

日常、教師が児童の書いた日記の中から良く書けているものや、工夫をして書いている作品などを選び、読み聞かせている。子ども達は、友だちの日記を読んでもらうことは好きであり、読まれる児童も喜んでいる。しかし、書いたものを自分で発表することや、友だちの作文に対して、思いを交流するなどにはいたっておらず、聞いて自分で感想をもつだけにとどまっている。国語科の授業の中では、書くことの題材の中で、「めあてに合った書き方ができているか。」「言いたいことははっきり伝わるか。」などの相互評価を行ってきている。その中では、意見の交流や良いところを相手に伝えるということではできているが、評価の視点をはっきりと児童がもつことができず、効果的に交流が行われているとはいえない。

#### 詩に関して

国語の授業において、4月から教科書の扉の詩の暗唱や音読に取り組んでいる。9月には「詩を読もう」という単元において金子みすゞ氏、まど・みちお氏の詩に触れた。この中で、詩では短い言葉で情景や思いを豊かに伝えられることや詩独特の表現方法などについて学習し、詩の創作にも挑戦した。また、この学習と関わって音読の教材として9月から詩の音読に、10月からはモデルを参考にした詩の創作に取り組んでいる。「美しい言葉に触れる」期間を経て、「さまざまな言葉を用いる」経験を積むことで、児童が使用する言葉が豊かなものになるものと考えられる。

## ○ 教材について

本教材は、言葉から想像を広げて詩を創作していくという内容である。詩を創作していくということは、基本的に個人の活動であり、自分を見つめなおし、思いを言葉として表現する活動である。しかし、生活の中から題材を見つけ、五感を働かせて言葉を紡ぐ活動は、思いはあっても表し方のわからない児童にとっては難しく、孤独な活動である。そのため本単元では、連詩を取り上げることにする。

連詩とは、大内(2001)によれば、「日本古来より行われていた「連歌」「連句」という「座の文学」に端を発した「共同制作詩」のこと」である。連詩は、友だちと共同して一つの作品を作り上げるため、自分の思いを表すことが苦手な児童にも取り組みやすい。さらに、友だちと一緒に創作したり、作品を交流したりするなどの活動を通して、児童に言葉から想像を広げて言葉を選ぶ力、創作したものを鑑賞しあい、感想を交流する力をつけることが可能な学習である。

連詩は共同作業のため一人で創作する場合と比較して大きく発想の広がりを見せることがあり、その醍醐味を味わうことができる。詩を創作するうえでも、作品を鑑賞するうえでも、友だちとのつながりを感じながら学ぶ良さを味わわせたい。また、友だちの創作した連を読み、それに自分の思いをつなげるということは、友だちの思いを汲み取り、それに関連付けた自分の思いを表現することである。後ろの連になればなるほど、多くの友だちの考えを受けて自分の表現を行うことになる。さらに作品を創作した後、班の中での交流をする中で、自分との違いや一人で創作したときとの違いについて、また他班の発表を聞くことで、自分たちの班との違いやそれぞれの良さに、気付くことができると考えられる。

## ○ 指導の工夫について

### 単元全体を通して

本単元では、ねらいを「言葉から想像を広げ、友だちと共同して詩を作ること」としている。一人一人が詩を創作したときと、友だちと協力して連詩を創作したときの違いについて感じ取らせたい。また、友だちの意見や考えを聞いたり、友だちの創作した連に付け加えると活動をしたりすることで、発想が広がり、豊かな情景を表すことができるような体験をつませたい。もちろん、一人で創作する時とは思い描いた情景や、気持ちが異なる作品になることも考えられる。しかし、これらの体験の中で、それぞれの考え方や思いに違いがあることや、自分では気付かなかった表現の良さや工夫に気付けるようにしていく。

連詩に取り組むにあたってはグループの友だちの作品を受けて思いをつなぎ、創作した作品を学級で紹介するという活動を計画している。各グループで創作した連詩をクラスの詩として取り上げ、クラスに掲示したり、音読の教材として家庭にも紹介したりするなどして、クラスに広めていきたい。これらの活動を通して、一人一人が活躍し、所属感が高まることを期待している。

### 授業において

グループ活動では、4人一班にすることで児童同士の関わり合いをもたせる。グループ内でお互いに良いところを認め合い、協力して一つのものを作り上げることで、それぞれの児童が活躍できるようにする。また、連詩の創作について題から連想させるイメージマップを作り、それらをもとに連詩の創作を行うことで、抵抗感無く連詩に取り組めるようにする。

また、班で連詩を創作する際に、題は教師の側から提示する。各班が別々の題に取り組むよりも、同じ題に対して取り組むことで、それぞれの班における違いが顕著になり、作品の世界の広がりを子ども達も感じることができるであろう。また、班で2枚のワークシートを用意し、二つの題に同時に取り組むことで児童の学習量を保障する一方、待っている児童が、創作するのに難しさを感じている児童にアドバイスをすることで皆が安心して活動に取り組めるようにする。

### 発表について

グループの作品を発表する際には実物投影機を用い、ワークシートを提示して発表させる。そうすることで子ども達が、クラスに発表するという意識をもって活動に取り組めるものとする。また、意見交流については、子ども達が「どこをどのように工夫したのか」「なぜこのような形にしたのか」「どちらにしようか悩んだこと」「このような気持ちを表したくてこういう形にした」「こんな話し合いになって完成した作品になった」など、工夫や完成に至るまでの経緯や込めた思いなどについて発表させたい。

8 単元の学習と評価の計画(全9時間)

次	時	学 習 活 動	評価の観点		
			関	書	言
一	1	・ 学習のねらいと流れを確かめ、連詩について知る。(ノート・発言)	○		
二	2・3	・ 言葉を集めたり一行詩を創作したりする。(ノート・ワークシート)		○	
三	4・5	・ 題に沿ってグループごとに連詩を創作する。(ワークシート) 本時(1/2)		○	○
四	6~8	・ 作品を鑑賞し合い、良さや感想を話し合う。(ノート・発言)		○	○
五	9	・ クラス全員で一行詩に取り組み、クラスの詩を創作する。(ノート)	○		○

9 本時の目標

- ・友だちの連に自分の思いをつなげて連詩を創作することができる。

10 準備物

ワークシート 前時で創作した詩

11 本時の展開

学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 前時に創作した連詩を音読みし、連詩の創作の方法を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちの気持ちを受け止めてつなげ、一人一連ずつ創作する。</li> <li>・リズムを大切にすること、題に沿った内容にすること、一人四行で書くことを確認し、児童が見通しをもてるようにする。</li> </ul>	
2 本時のめあてを確認する。 ・声に出して確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">友だちの思いに自分の思いをつなげて連詩を作ろう。</div>	
3 連詩を創作する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3～4人のグループで活動に取り組む。</li> <li>○前の人が創作した連に合うように続けて創作していく。</li> <li>○各班に2枚ずつ配布する。</li> <li>○求められればアドバイスしても良い。</li> <li>C：前の人が創作した連の中から、ひとつの言葉に注目させて、発想を広げるようにする。</li> <li>・繰り返しとして使えるところを探して一部分を変えるようにする。</li> </ul>	<p>A：題や友だちの創作した連に合うように、言葉を選び、連詩を創作している。</p> <p>B：題や友だちの創作した連に合うように連詩を創作している。 (行動観察・作品)</p>
4 創作した作品を読み感想を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実物投影機を用いて、班で創作した作品を直接示して発表する。</li> <li>○次の視点で子どもたちが交流できるようにする。</li> <li>・友だちのどの言葉に思いをつなげたのか。</li> <li>・一人で創作したときと比べどう違うか。</li> <li>・自分の班の作品とどこが違うか、良いところはどこか。</li> </ul>	
5 次時の内容を確認して、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次時の活動に意欲がもてるようにする。</li> </ul>	